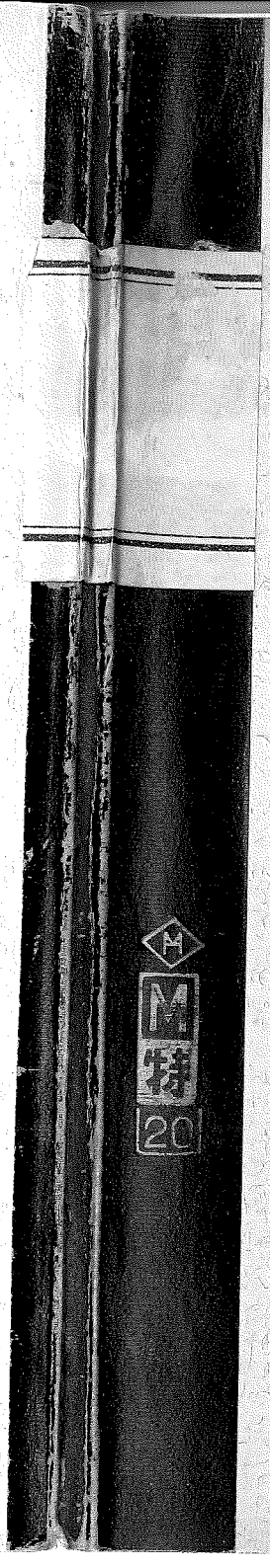
HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第10巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	国民社会の観点よりみた都市機能 ： 都市農村の機能論的考察 第1巻 『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
Issue Date	1961-02-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77617
Type	manuscript
File Information	I013_0110.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10

久美堂特製
¥20



15

NOTE BOOK

Made of paper

Specially prepared in Japan

國民社會の研究
第十卷

昭和三伏年九月二日

A—NO.8 MUSASHI

10

①支配と従属の関係

a 管理 ― 支配を基本とする統治

b 支配 ― 従属を基本とする統治

c 協力 ― 支配と従属を基本とする統治

統治活動は最上部から統治組織は
統治機構と統治機能
統治の例
国家統治と制圧(威)
都市統治の機構と制圧(威)
国民すべてが社会的安寧を
有するために
②国民すべてに共通の支配関係
国家制度(法律)
国民すべてが安心して生活できる
生活構造(生産構造)
近世封建社会の身分制度
国家統治の支配関係
国民すべてが安心して生活できる
生活構造(生産構造)
都市化社会故に有するスラムの集落的集落
国民すべてが安心して生活できる
国民すべての協力の協定
国民すべてが安心して生活できる

統治活動は最上部から統治権系は
最末端か
統治活動は制限は被統治者に有るとはさ
ず、最上部でその思わかなに同次さ
れる。けれども統治は被統治からよ
この統治であるから被統治に接触、
なければならぬ。接触するのは統治機
関の末端部である。
最上部の統治方針がいつでも陰
なく実施されるから被統治者との接触
は多くの中間者をもつ。そこな
考へかたから統治権者を最上部か
ら説明しようとするのも一考を要す

ある。けれども、この日本かぎりかもしれない
明治憲法は、横造の
明治憲法では、最下部で権力
即ち国民が一人一人に最も近い
拳すがし知れぬ。国民は
石ではなかったのだから
けれども国民が死を賭して
立ち向った前近代はなくなったのではな
くして、別の人々が別の方針をかか
えた最上部につき国民を統治す
る。統治文化などのは恐らくあり
得ないのかも知れぬ。統治の構造
法の方法がそのまゝに強よ丈ではなく

統治者階の中の大部分の人々もおそらくかし気づかれぬ。官僚も軍はおそれのみである。民衆を政治につかう大政政権は最上部の人の権勢かも政策の一すじん変化だけかし知れぬ。

統治主体はその時、に応ずる。体中毒素統治の絶頂も統治の構造も変らない。

新連盟も不動も共和制も民衆の側からは統治団の一つの、狼か虎や獅子かは、吸いつくこれいれものである点は同じ。

口民は統治されるものだと
有(あ)たかったのか。振(ふ)であった
虎虎であるかのように
他口の虎に嫁は小さ(ちい)ほうがよかった
他口の房(ふさ)をたたいた。 敵民
の好期をまつことをとまった
えがたい。多くの人が
未口民は当然のように自己の仲
まかう立つ多く気配りして来た。
たかく口民が多く統治支配は
国家しいるかぎり
なくなることはありえない。

統治活動と統治政策

統治活動は統治者が行う活動である。統治政策は統治者と被統治者の間の仲立ちとなるものである。

国民生活に重要な意味をもつものは統治政策であって統治活動ではない。

統治活動は統治する人々が勝手に行うべきものであるが、国民の身の丈に合ったものでなければならない。

統治政策の正しい理解こそ国民には必要である。

中央と地方の関係

今

なく、住民一人一人にもれなくその支援の手を差しのべる仕事をはたすのが、行政活動の全部である。

一人一人に住民を住民一人一人からその支援の手を差しのべるのがうけみたし

の様作、が行政活動である。

中央の官庁を含む地方自治体の公務員の全部が行政活動であり、その為の組織が行政組織である。行政活動、行政組織をふまえよ。

ここでは、官庁を配分する上下の関係に

ヒ

の操作がおこなわれるのである。

（文部省の結果を下級官庁に伝達する操作というのは上級官庁がその操作を通じて行政をするのである。）

二六九三、

而して上述の諸点に関する事実は何れも之を認めるに足る証拠のあることが明白である。

二七〇、

なお以上の認定に反する証拠はこれを採用しない。

今日本では統治の最上本を立て、
皇国民統治の方針の決定基本命令
の作成を以て諸般の施策であるが、諸般
の命令作成は次の方針は皇国民皆
の道の理性的実行基準を作ります
ことであるが、今では皆皇国民
の道を忠孝の道心を失せないまを
忘れないで理性的方策をたてる
ことです。

口実統治と制圧（威）
都市の結節の機能と制圧（利）

統治と制圧は不可分のものか。同様に
都市と結節的機能と制圧とも
不可分のものか、どうか。
換言すれば、統治するうえで威圧
の事とは必ず結びついているもの
かどうか。
又、結節の結節となる
都市（有利）は威圧しやすいか
しおくべきかどうか。

統治し都市も威圧しおくべき
（有利な）
事、例えば黒ノ、両者同一の
同じ様な性格のものであるか。

特に
財閥は制圧するようであ
制圧のために、前者と口実は
初めの勢いはしない。
上級裁判所はその関係の事
務方に対して成法を出す事
でもある。裁判官という組織
同士でその結果した方が散発
的な関与(裁判官の訴訟指揮)
うか。制度も口実も結果して
力がこれまでにあるところに成力をし
ている。
尺を統制や連絡の中心に近い者程

威法、なり有名であるのは、古代帝王のはかの人間のような習慣である。前者は生命の役をなしているが、後者は有名であり、役人は統治の為に威力をもっている。

12

民主的な文化の建設をめざして

日竜社会内における権力の支配関係

国家そのものは統治支配の関係に外ならない。国家統治の活動は統治関係の上部構造は上述の統治関係を統治支配する関係である。

統治機構の下部構造即ち統治の基礎において活動のみが統治であり国民に対する統治支配の活動である。

国民社会内の支配関係はその統治活動に準じて変化し変遷していく。統治機構と国民との支配服従の関係である。又それは当然国家の体制のもとにおいて最終的には支配の体制のもとにおいて

14

支配と従属の関係

(1) 支配とは、ある人の意思が他の人の意思または行為を制約するものをいう。

(2) 支配はあるものが他のものを制約するものをいう。

(3) 支配は権力関係であるともいう。

従属とは、ある人の意思が他の人の意思または行為を制約されることをいう。

従属はあるものが他のものに対して支配的であることをいう。

従属はあるものが他のものに対して支配的であることをいう。

15

国民生活の支配関係とは

一、統治支配

一、産業支配

一、軍人階級支配

一、軍事支配

一、男女支配

一、教育支配

一、宗教支配

一、家族内支配

一、個人支配

口実を与え、軍部が政治に干渉する
前例は、悪いほうにおいても
むずかしいものがあります。

要するに統治支配の外には、実権は同様
伝統によると共に、身分支配とか
強圧すれば戦時内支配が強力に
なるとも思います。

軍人支配は統治支配そのものの共通
一の戦時内支配と言うべきです。
本来政治は民意を基礎の上に置き
何千年との安寧を保ってきた。都市
の共和支配はその為におかれてある。
最高統治者の眼中には民意は全く

金この地方としても許されたので、世良の統治のもとは前と同じくとなんず、当世良を統治するをも何に統治するか、清水同じくあり、統治組織あは統治する人々の間の統治です。

世良は独裁的な官僚の上部力をこの外統治されていたようです。

従律は等々統治をの同の秩序不正や謀叛の防止をも勤めるをもとした。

世良は許しては法律なしうなった。

以上の如き性かの立法国会に対して日安はその国会を構成してまた。

11

特にその更新はあくまで混乱を招く。
口座経済は最初には試みよう
決定する。下は上に従うことを
もとするは口実をのぞき特有の
守るべきものとみなすと同時に新
しく考え、上が下におしつけるよく不
合理な人間の弱点をつくしたと
しても必ずや抵抗があるまた
を庶子として下が上に反抗
業方を用いるは非合法として
庶子とする。口実は事に上にあり人
の個人の経済生活をおもう

まで。せいぜい二年ともちなくなる
だけであって、アルバイトの
各種のは基本給はなく歩合給
報酬が高くて、なれば
収入は報酬をそのまま表す
なれていない又それで
政治家は人口民をへとしまう
為に口民を無視よう
一般に対しなくとも口民をだます
法は色々ある。今の政治の
お粗末はそれをよく表す。
なし等、子供としての口民に

それとともに後の手紙においても、
治郎は無事祝言にこぎつけようと

a. 家族と世帯
   血縁関係と職場

b. 生活地区

口長次郎における社会構造と
生活構造の根本

a. 家族構造 ― 血縁関係とその結合

b. 生活構造 ― 世帯 ― 擬血縁関係
   田舎的

未二郎における場合

a. 元の構造 ― 世帯と職場

b. 生活構造 ― 地域 ― 未生活地区
   未生活地区の未二生活地区

の後かうおもはれてうつつとも
なうつゝなれ別にこゝろへこの秋
はぎのはすゑをしなみかぜにまか
せてちるをみるにつけてもいと
ゝ

日本況な家系の話を先に
日家起源論に関して今は神事を
系の記録はありますが私の不注意
主祝文のみつくりの説をきりしよう
主祝文はよく日家祝詞に及ぶ。
日家系る海その他に対して結束
国という家は日の他集団とする
く異なる一郎の集団として国おいか
主の主張もます。
オリンピックの輪 集団という
日家に対しては日家系輪 集
国でおよそ日民主輪 集
国であるとも言えるかもしれない

37

自然科学と人文科学の四つに
生命学のしの一つを作りお
すねまでは分かるが、文化科学とか
えんなのまで来ると多少無理
生命を作りすぎの世界文
外にはない、この生命のうち知る
あの通りてきこにはかかる何は生命は
進化の一路をたどりこの世界に
は宗教も有ります。
今
宗教もまったくはまだ
あります。人間生活
刑事訴訟法がついてゆくべき

ここで先祖についてのお話をもう一つ、お聴きください。

（十月三十三日）

このお話は昔の北安房郡の和泉村というところでお酒屋になったものであります。ここで答えて見ましょう。

一、この事件の発端

戦争末期の川西小屋、
の一団、北陸の侍部隊。
大阪市内のスラム街。北陸の
スラム街の如き所のスラム。
京城の土幕民、北鮮の火田民)
。春窮民と南鮮事中の
同家の窮民のベストワ。
窮民は皇を北サて山にかくれ
か、都市の不用地にまみ来民
の屑拾いよりはなさるか。
山窩は山にかくれより火田民と同様。
火田民は栄耕は経ますまうか、山かは

42

手仕事を営み、工芸的高みの
て前衛的である。傘の修膳やトギ
やは近代的。札幌の特殊施
はハタやかなく抵抗地の強硬を
おさまりがち。

大阪の客も時や事柄の
でしばやかな、前衛の破壊衝動
前衛の清掃でもある。ハタやかな、
ば利用しなければ洗濯している。燈
にこもる。人の世のためである。それもテイ
テイに整理された利用し捨ての傷痕の蔽
おの一片し人の世に役立てるのかハタや、

43

ある。ハタヤの仕事は人の世に必要であるから、すくとも望まれるから、彼等に月給を支拂ふ事は出来ないよ。居住に住ふ人々よ。ハタヤをなくしてハタヤの仕事は成り立たぬ。ハタヤは彼等の為人がすれもしなければならぬ。おからハタヤを彼等やとつたらよい。

江戸名所図会から昔から神事の行列には先供といふのがあつて土地の民の先祖である。その先祖つまりそもヤマタギは火田民の先祖かサンカはこれ等のそつくりもの

口民社会福祉協議会
一、定款
一、定款の運営その他の必要な事項
一、細則
一、細則については、この定款の施行に関し必要な事項

イ、未端の構造
ロ、未端組織における未端と各の
ハ、その上司行政機関に命令とする
二、第一項の命令を発する場合
ホ、未端組織は、その他の業務
ヘ、最上行政官庁の命令は違
ト、

二、日民主義

(D) U.S.A. 人口 約1億5千万 (1950)
機械文明 国際的地位 特に
農業機械の飛躍的発展

岡本図

岡本図

ホ. 上記各機関は、国会の
具体的な法律に基いて、
設置されるが、国会成
立前に於ても、連合国
軍最高司令官の指令に
基いて、内閣総理大臣
の下に、

リ. 教育機関
又、官僚的統制と法令
万能の弊害と革命の前兆
いわゆる統治文化の発展
つ. 男女別学と民主別

ホ
ロ
ハ
ニ
ホ
ヘ
ト
チ
リ
ヌ
ル
ヲ
ワ
カ
ヨ
タ
レ
ソ
ツ
ネ
ナ
ラ
ム
ウ
ヰ
ノ
オ
ク
ヤ
マ
ケ
フ
コ
エ
テ
ア
サ
キ
ユ
メ
ミ
シ
ヱ
ヒ
モ
セ
ス
ン

ホ.

(ロ) 生存の安易拡充(医、衣、食、住、文化、公衆衛生、防止)

(ハ) 治安

(ニ) 文化の接触と同化の程度

(ホ) 対外的な争いを回避する国家は所属民を拘束するような保護をしない。

ヘ. 民族なき人口

(イ) 民族は比較的単一な人口を以て成立する。

(ロ) 生活の根本的な一致を感ずる人口が国家を成す。

(ハ) 民族なき人口は国家を成さない。

(ニ) 民族なき人口は国家に対して自己の民族を保護せよと要求する。

(ホ) 人口流入は国家民族の侵入の脅威を増す。

甘いものではなく、すきあらば全の独立を狙うかは
全ネ面に常に存在している。たがこの独立を守るために絶えず積極的な活動があるようなは要である。
そんな積極的な活動を欠いたものが統治活動である。統治活動が、申しあわせたように混乱が生れ出してくる。
故に国家の活動は過去何千年来、寧絶なく少要であった。古い時代程武力が統治の主体をなしていたが、近代化するにつれて道徳の約束ごとが主となってくる。